



島の人の魅力的な暮らしに溢れた空間の先に瀬戸内海が広がります



高校生から高齢の方まで、多様な待ち方を受け入れるように、それぞれの空間が広がります



登下校のついでに寄りたくなるような待合所は、瀬戸内海から大崎上島へ軸線を通すように建ちます



心地よい距離感の勝手口空間に在るだけで島のいろいろな情報が飛び込んできます



袖壁のこもり空間は外の活動を引き込み、待合所は島のいろいろな情報が集まる場所になります

コンセプト

0. 生活に流れを生み、暮らしのあれこれに囲まれた勝手口空間

フェリーから島に降りると、船の解体の音が聞こえてくる、入口に腰を掛けて煙草を吸う人がいる。

そんな場所にはかきこもった玄関よりもどこか**島の生活感に溢れた勝手口のような空間**が、旅人は離島にしかない魅力を感じ、島の人にとっても使い勝手のいい居場所になるのではないだろうか。

家に勝手口があると暮らしがぐっと便利になるように、「離島の勝手口」の扉を開けると、島の暮らしにあふれた、島の人とも旅人も**魅き込まれるような待合所**を設計します。



デザイン

4. 島の課題から生まれた5つのデザイン

島の人も島の外の人とも待合所に入ると、島の情報を手伸ばしたくなる**勝手口空間**とすることで5つのデザインを提案します。離島ならではの**個性**や、チラシや掲示板などの動かない情報も人の活動と一緒に点在させることで幅広い情報が手届くようになります。

ほっと 通院
島の**通院が困難な高齢の方**が受付の方とほっと話して**島の新しい情報**交換の場所となります

わちゃっと 世代交流
若い世代の方が集まるわちゃわちゃ空間で、**年齢に縛られない情報**を知ることができます

ぱくっと 地産地消
島でとれた**食材や売店の商品**が手届くことで、**島の食材**を知ることができます

すっと 観光情報
旅人がすっと入って、海を見ながら、パンフレットなどで**島の情報**を知ることができます

ひそっと 情報交換
カフェ等の小空間が少ないですが、ここでは**ちょっとこもり**で仲間同士で**お話し**します

平面計画

5. 通るだけで島のあれこれに触れられる奥行きをもった「勝手口空間」

今までのようにただトイレに行く、売店に行く、受付をする、ただそれだけでも**「島のあれこれ」に手が届いてしまいうような「勝手口空間」で島の魅力を再発見**します。

①のんびり出来る屋外空間
少し伸びた壁がインドキャッチャーと目隠しになり、心地よい風を感じながらゆっくり出来ます

②ほっと 毎日いる受付の方と一緒に話して、知らなかった情報を知ったり、少し後向きな会話の気分転換が出来ます

③外と繋がる事務の窓口
カウンターに寄っかかりながら、ちょっとした受付の方とお話出来ます

④3方向が見える事務室
北側の海や橋、東側の待機ベンチ・西側の待合室を見渡ることが出来ます

⑤受付横の小さな棚
受付と売店の間に島のモノや情報を置くことで利用者が通るだけで、知ることが出来ます

⑥待機ベンチからの島の特産物が見える窓

⑦市販の商品と一緒に島の特産物や学生の作品を置くことで、買い物しながら、島の情報を知ることが出来ます

⑧イベント時に外までつながるジャロジー付き折戸

⑨海まで開けた視界
奥行きのある勝手口空間によって、島のあれこれをもっと瀬戸内海を望むことが出来ます。新しい情報が来たときは、島の風景も待たずには、よりリアルレベルで見たときに島の魅力を再発見出来るような勝手口空間です。

⑩都会のようなカフェはないですが、売店で買ったものを食べたり、放課後ちょっと友達をお話出来ます

⑪ひそっと
都会のようなカフェはないですが、売店で買ったものを食べたり、放課後ちょっと友達をお話出来ます

島と待合所の課題

1-1. ただ「通り過ぎる」だけの待合所

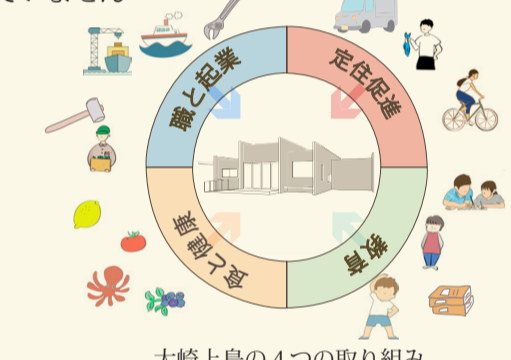
待合所がただ通り過ぎるだけの空間になっています

今の広くもった待合空間は、**毎日利用されるポテンシャル**を持ちながら、実際には利用者が「待つ」というよりも、**トイレ・売店・受付**などを利用するために「通り過ぎる」だけの場所になっています。

1-2. 広がりにくい島の情報網

島内の活動が島の人たちに広がっていません

大崎上島でも少子高齢化は大きな課題であり、さらに離島であるがゆえに様々な課題を抱えています。それらを解決する**取り組みが盛んに行われているのが、島の内外にも外にも上向き情報が伝わっていない**ことです。通勤通学を毎日利用する待合所こそ、島の情報を島内外へ広げる新しい場所になるのではないかと考えました。



提案

2. 「通る」だけで島のあれこれに手が届くような待合所

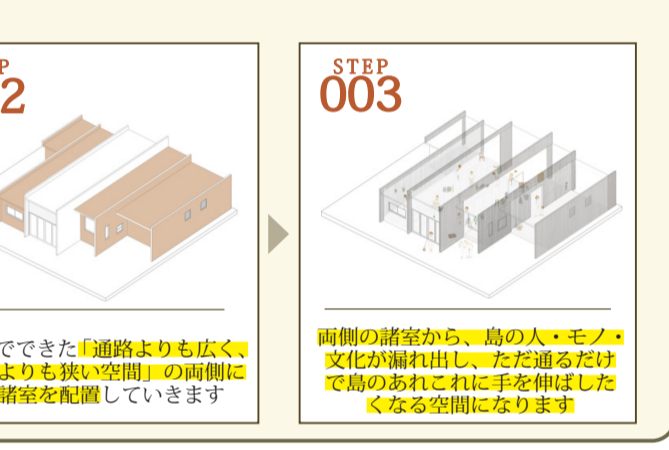
■手を伸ばしたくなる奥行きのある待合所

■提案ダイアグラム

STEP 001 15m x 15mの正方形の敷地に南から北へ奥行きと高さのある空間をつくります

STEP 002 001でできた「通路より奥行きのある空間」に必要機能を配置していきます

STEP 003 両側の階から島の人々への奥行きと高さのある空間を確保し、奥行きと高さのある空間に必要機能を配置していきます



展望

3. 島を生き、島に生きる「離島の勝手口」

■情報が集まった「勝手口空間」が暮らしを豊かにする

■島の環境に溶け込む「勝手口」

プランの変異性

6. 幅広い活動を受け入れる勝手口

奥行きのある勝手口空間は単純な建具と小上がりで空間を区切ることで、フェリーを待つ以外に、島の人の活動に合わせて空間の使い方を柔軟にできるようにしています。幅広い島の活動を受け入れられる「勝手口空間」によって利用者は**幅広い情報に出会うことが出来るのです**。

個室型

ストリート型

アリーナ型

計画

7. ローコストで海辺に適した「勝手口空間」をつくる

瀬戸内海の風の気持ちよさや島ならではの景色を活かすつ、**塩害や海風などの海辺特有の敷地に配慮した計画**をします。

■奥行きを生む建築形態

■塩害に配慮した素材選び

■ローコストに配慮した計画

断面計画

8. ただ「通る」だけでも島のあれこれに触れられる奥行きと間口

通路よりも広く、待合空間よりも狭い空間に高さを持たせることでさらに奥行きを生みだし、**人・もの・ことがゆるい距離感で混ざり合う待合所とつながっていきます。島のリアルな生活感に囲まれた空間を通ることで、利用者は島の様々な情報に触れることが出来るのです**。

■断面計画

■最高高さ

平面図 Scale=1:80

X-X' 断面図 Scale=1:70